

盛岡市動物公園ZOOMO「動物の展示、飼育繁殖、収集の基本方針」

1. 基本方針策定の趣旨

盛岡市動物公園ZOOMOのリニューアルでは、「盛岡市動物公園再生事業計画」に掲げるコンセプト『人と動物、都市と自然が共生する環境公園』に基づき、ストーリー性のある展示と動物福祉に配慮した飼育を実現するため、ランドスケープ計画を反映させるとともに、展示方針や飼育方針に沿った現施設の利活用と施設改修、動物の補充や繁殖の実現性に基づき、全動物種の展示、飼育繁殖と収集について検討しました。

⇒「ストーリー性のある展示と動物福祉に配慮した飼育」「展示方針や飼育方針」は、下記※をご参照ください。

2. 動物展示における各展示エリアのメッセージと飼育展示動物

(飼育中止動物は予定のものも含みます。)

(1) 里山エリア（現在の日本生態園、鳥類ゾーン）

日本の野山に生息する動物の存在や自然の中の多様な生態に気付くよう、岩山の自然と一体化した展示とし、里山の動物たちを観察することにより、日本の動物たちと共に存する豊かな里山の大切さの理解を深める。

飼育展示動物：ニホンザル、トウホクノウサギ、ホンドテン、ハクビシン、ニホンアナグマ、ニホンジカ、ニホンリス、ホンドタヌキ、ホンドキツネ、ニホンツキノワグマ、ニホンイノシシ、ニホンカモシカ、ニホンイタチ、ニホンキジ、ニホンイヌワシ、フクロウ、オオハクチョウ、ニホンキジ、キジバト、など

飼育中止動物：キュウシュウノウサギ、ハタネズミ、ニホンイタチ、トビ、コクチョウ、サカツラガン、ハクガン、アカツクシガモ、ニジキジ、セキショクヤケイ、アメリカワシミニズク、シロフクロウ、ワライカワセミ、シュバシコウ、ヘビ類、カエル類

(2) サバンナエリア（現在のアフリカ園）

アフリカのサバンナや生態系に思いを馳せられるよう、間近での観察により形態的特徴や息づかいを体感し、立体的な動きを多方向から観察することにより、生物多様性の再発見を促す。

飼育展示動物：アフリカゾウ、ライオン、シロサイ、ヨーロッパフラミンゴ、キリン、グレビーシマウマ、シタツンガ、ダチョウ

飼育中止動物：ショウガラゴ、フェネック、ケープハラックス、ヨツユビハリネズミ、ヒョウモンガメ、ニアフリカトカゲモドキ、ヌマヨコクビガメ、ボールニシキヘビ

(3) 草原エリア（現在の草原ゾーン）

迫力ある動物を間近で観察し、特異な進化を遂げてきた動物を同じ空間で観察することにより、野生動物の力強さや逞しさを体感し、生息地の動物に思いをはせるとともに、生物多様性について

て興味を喚起し理解を深める。

飼育展示動物：アメリカバイソン，アカカンガルー，エミュー

飼育中止動物：プレーリードッグ，アライグマ

(4) 牧場エリア（現在の子供動物園）

牧歌的な田園風景を再現するとともに、家畜と人との関りについて理解を深め、動物との触れ合いを通して情操教育に寄与する。

飼育展示動物：ウシ，ヤギ，ヒツジ，ラマ，アルパカ，コールダック，ポニー

飼育中止動物：カイウサギ，モルモット，ミーアキャット，カピバラ，ロバ，ガチョウ，インドクジャク，ニワトリ，ヒトコブラクダ

(5) ビクトリアコーナー

盛岡の姉妹都市であるビクトリア市との関連性を示し、カナダの動物の多様性や生息環境に思いをはせる。

飼育展示動物：カナダカワウソ，ピューマ，オオツノヒツジ

3. 主な動物における展示等の変更について

ア. イヌワシ展示と飼育繁殖の取り組み

日本列島において、人と里山環境の中で共存してきたと言われる絶滅危惧種ニホンイヌワシを通して、日本の動物たちと共に存する豊かな里山の大切さに改めて気付き理解を深めもらうため、またイヌワシの種の保存に貢献するため、里山の中での展示手法を導入するとともに、その繁殖に適した施設を設置する。

イ. カモシカの飼育展示場所の変更

岩山の自然と一体化した展示の中で里山の動物たちを観察することにより、日本の動物たちと共に存する豊かな里山の大切さに改めて気付き理解を深めてもらうため、現在は子供動物園隣接地で飼育展示しているカモシカを里山ゾーンで飼育展示し、周囲の林と一体化した展示による自然の中での観察ができるようにする。

ウ. 夜行性里山動物（ヤマネ、ノネズミ等）の飼育展示 ビオトープ

日本の野山に生息する夜行性動物の存在と自然の中での多様な生態に気付き理解を深めもらうため、現在は動物資料館内で飼育展示する夜行性動物を現在の水鳥池を改修したビオトープの中に点在する小型の施設で飼育展示し、森の中を散策しながら夜行性動物に遭遇し観察できるようにする。

エ. ポニー乗馬の充実とラクダ飼育展示の中止

乗馬を通じて家畜動物への理解を深めるとともに来園者の情操教育に寄与するため、ポニー乗馬施設を充実することに伴い、同場所で飼育展示するラクダの飼育展示を中止する。

※「ストーリー性のある展示と動物福祉に配慮した飼育」「展示方針や飼育方針」について

「盛岡市動物公園再生事業計画」より抜粋

(1) 展示方針『展示ストーリーとメッセージ』

動物の飼育展示環境では、動物への配慮と人間（来園者や飼育技術者）への配慮が両立されるべきであり、これが展示ストーリーの基本となる。

ア 動物への配慮として、それぞれの動物の生態や行動における適正な状態が実現されるよう、動物福祉（アニマルウェルフェア）を考えた施設とする。

イ 人間への配慮として、ストーリー性のあるゾーニング、メッセージ性のある展示デザインとサインにより、知的欲求が満たされ、楽しさを感じられる施設とする。

(2) 飼育方針『課題と選択の機会の提供』

動物種毎に適した刺激を与え、動物の生活環境を絶えず変化させること（環境エンリッチメント）により、その種が本来持っている多様な行動パターンを発現する機会を提供し、動物が選択することにより動物本来の行動を引き出し、飼育動物のクオリティ・オブ・ライフを高め維持する。

(3) 繁殖・収集方針『盛岡ならではの特色と持続可能性』

動物の繁殖・収集は、計画的でかつ独自性を持って行う必要がある。そのためには、展示方針や飼育方針、将来の飼育頭数維持の可能性などを考慮し、高水準のアニマルウェルフェアを保証しながら検討するべきである。

盛岡市動物公園のシンボル的な動物はニホンイヌワシであり、生物多様性保全の観点からも、ニホンイヌワシのような動物の保護と繁殖、そのための環境教育を進める必要がある。また、海外産動物など、今後入手困難な動物種の飼育継続は長期的な視点から検討する。

※ 詳細は、盛岡市ホームページ「盛岡市動物公園再生事業計画について」をご参照ください。